（九日夕刊）

磐城新聞

休刊日　大祭第一第三日曜日
定價　壹ヶ月五十錢（壹枚二錢）（郵稅拾錢）
廣告料（雜報欄一行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
福島縣平町田町拾六
發行所　磐城新聞社　電話五六番

プロレタリヤ文學の崩壊

竹倉鷄之

近年、一段の趣きを呈して所謂ブルヂョア文學を淩ぐかの觀がある所謂プロレタリア文學が破竹の勢ひで驀進して來た、その新らしい世相の穿ち方は年と共に文學界に覇氣を示しつゝあるやうだ。文壇に於ても乃至讀書界に於てもその所謂プロ文學の將來は偉大なものであらうとの推察が充滿してゐる傾向がある、しかし大乘的見地より純正な批判を求むれば、その勢力は太陽の將に西端に沒せんとする斷末魔の光りの如きものではないだらうか。

所謂プロ文學は、實質的に底の見え切つたはつはつまつた文であるといふことが、作品を通じて理解さるゝ日が近づきつゝある。と同時に一時は奇警の着眼を惜まなかつたのに反比例して、崩壊さるゝであらうことゝ思ふ。

ぷん學とは、慰安や裝飾のみの役割を演ずるものでなく、内質的に（外觀からの見地では理解し難い）經國作用をなすことは誰しも熟知のところである、然し經國作用とは讀書子自らの文學に對する慰安や裝飾を閑接してゐる。文學の眞髓を講究する人々からでなく一般的讀書界の見地からである。

斯くの如く、矢張り文學からは人生に對して光を求め、新生面の生命を渇仰してゐるのである、然るに近年に至つて、自然主義文學の平面的な單調に嫌意を覺えた折、文壇に少しく毛色の變つた文學が存してゐるのを認識した、これプロ文學である。

けれども新生面の文學を求めてゐたのに反して認めたプロ文學には、文學的新生面が缺乏してゐた、プロ文學が明治期に於ける自然文學の如く、文學的生命が掉越してゐるために文學界に見出だされたのではなく文學の續き來る同一感情を脫せんため無理にも相對としてプロ文學が引き出されたのであるから結果が崩壊することは自然の成果とは云はねばならない、如何に新人が集會して祭り騷ぎを演出しやうと試みても、缺乏せる文學にして如何とも動じ得ない。

讀書界は目新しいプロ文學に親灸して人生に於ける立體的新生命を求めやうとしたのであるが、此の如き底の見え切つた文學であるを知りつゝある今日、此處に不服を胸裡に覺えつゝある。この不服こそ、數年中に來るべきであらうプロ文學の崩壊の根底である。

あらゆるものをプロレタリア的に滑り入らせやうとするプロ文學は眞の文學ではない。主義や時代を超絕して本當の藝術味ある光りと生命を把握するのが文學である

社會運動を文學に搾取しようとした國計が最大の崩壊を來す原因である。文學の根本義を忘却し一途に無產主義のみを入れ、これによつて運動しようとした矛盾が此の成果である。文學は主義主張の運動のために用ゐられる機械ではない

民衆藝術ならば可なりと云ふもプロ文學の根底には寧ろ三嘆を禁じ得ない

プロレタリヤぶん學によつて大なる視野が開け飜と思つたのは錯覺であつた

プロレタリヤぶん學は、現今の作品狀態を維持し一方の活路を求めぬならば時々刻々發表さるる作品ごとに讀書界に不服の度を高め崩壊することは必然である

明日の吉凶

舊曆四月十日
新曆五月十日

▲一白　目上の者の感情を損ひ易き日控へ目が吉し▲二黒　姑息手段を採らずあくまで働きに依るべし▲三碧　思ひに耽れば身を焦かす位高きも驕る勿れ▲四綠　打てば打たるゝ世の習ひ低きに居るが安全▲五黄　多少の支障はあれど撓まず勵めば吉に向ふ▲六白　事を始むるに吉き日但し急ぐことは愼むべし▲七赤　勞働を積みし報ひの我が身に廻り來る吉日▲八白　流言浮說に動かさるゝ日新しき事は尤も凶▲九紫　四圍の感情を損せざれば次第に吉運と成る

〔木曾節〕

男ナアー、ナカノリサン男だてならナンヂャラホイ、この木曾川のヨイヨイ〳〵。
流れナアー、ナカノリサン流れ來る水ナンヂャラホイ、とめて見せうがヨイヨイ〳〵。
とめてナアー、ナカノリサン止めてとまらぬナンヂャラホイ、色の道、ヨイ〳〵〳〵。

講談

血で血を洗ふ

(30)

高橋掬太郎創作
布施中八郎揮畵

側室の發表

擧作があつてから間もなく深雪は成昌の側室と云ふことに正式に發表された。それはお秀の方から再び進めた上で決定したことであつた。

成昌は深雪を深く愛した深雪も成昌に對して身も魂、捧げて仕へた。けれど深雪は如何に成昌の寵愛を篤く受けやうとも奥方の存在をしばしの間も忘れることがなかつた。そしてよく奥方に敬び仕へることを心掛けたので奥方も深く喜んで深雪がやがて世繼ぎの子を生むことを心から祈つたのであつた。

成昌は深雪を側室にしたことで深雪の父の立原新左工門に對して何んとなくすまぬやうな氣がしてならなかつた。

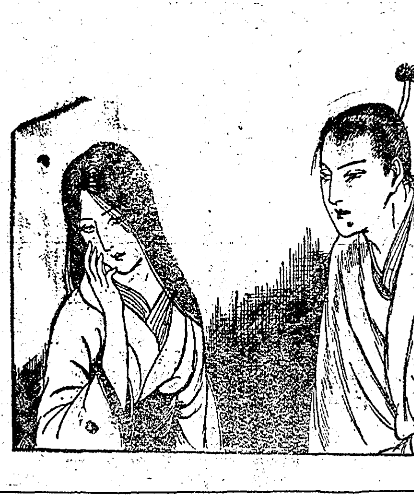
「深雪。そちを側室にしたことを知つたなら、新左工門殿は立腹をせまいかの？」

と或る時も成昌は深雪に云つた

「何故でございませうか？」

深雪は訝かるやうに反問した

「何故と申して、そちの身の上については立派に夫を定めると約束をしたのであつたが側室と云ふことは新左工門殿にとつて不本意ではあるまいかと思ふのぢやよ」



「まあ勿体ない父がなんで不本意など申しませう。喜ぶことと存じます」

深雪は成昌の心づかひをから打ち消したがそれにしてもそれ程迄に我が身を氣づかつてくれるのかと思ふと勇の愛の深さがしみじみと胸にこたへて思はずも嬉し涙が頰をつたふのであつた。

だが新左工門殿はそなたが晴れの婚禮の席と初孫の顏を見る時は出てまゐると申したではないか、そちが余の世話をしてくれるやうになつた時余はそれを考へて新左工門殿の許へ告げやうかと存じたであつたが何んとなう側室にしたと云ふのが相濟まぬやうに思はれて躊躇したのぢや」

「そのやうなことは決して御案じ下さいますな當代の智勇の將として名高い、そして代々の御名家であらせられる主君樣のお情けを頂きますことは武士の娘の本意でございますものを何んで父がそのやうなことを思ひませう。殊に父は主君樣のことを日常敬明しておりましたもの妾が主君樣のお情けを頂いてゐると知りましたらどんなに喜んでくれるか知れませぬどうぞお差支がございませぬなら此の事にお傳へ下さいますやうに願ひ致します」

「左樣か然らば早速に新左工門殿に此の事を申上げやう。そして新左工門殿もお年をとられたのぢやに依つて山中の生活を厭はれるやうなら城内にお迎へ申さうではないか」

「さう願はれますれば此の上の幸せはございませぬが父は御存じの通りの變り者でございますに依つて出てまゐるかどうか判りませぬもう年老へておりますから出てまゐるとよいのでございますが……」

と深雪はにつこり微笑み作らも老へた父のことを思ひやるやうに寂しい面持になつた。

「まあよい、兎に角使の者をやつて見やう。それで出ておいでになるやうならお迎ひ申さうではないか」

「はい。どうぞよろしいやうにお願ひ致します」

「では明日でも誰かあの時の供に加つてゐた者を二三人で使者にやらう。何か父の好む物をお届けするがよからう。何なりと遠慮なく申すがよいぞ」

「有難う存じます」

それから土産の品々を買ひ調べて鷹狩の供に加へて新左工門の隱れ家を知つてゐる三人の武士を使者にして新左工門を訪問させた。ところが使者の三人は夕方に持つて行つた品々を其のまま持つて歸つて來た。

「如何致したのぢや。道を忘れたのか」

成昌は訝かつて問ふた

「いゝえ道は忘れませぬが新左工門殿は何處へ行つたのか留守でございました」

と使者の武士は告げた

無盡は磐城

簡易の金融を望まるゝ方は
趣味の貯蓄を望まるゝ方は
堅實と誠意とを主義とする
當社を御利用願ひます

常磐線植田町本町
磐城無盡商會
同平町中町通り
平支店

目下五百圓會、會員募集中満口にならぬうちに早くお申込み下さい、當商會の事務取扱所は各地にありますから最寄り取扱所へお申込み願上ます。

のんですぐきく
クノー散
神經痛、頭痛、ロイマチス、齒痛、肩のコリ、其他疼痛時服用すれば奏効的確なり
論より證據直ちに試みられよ
定價　二十錢、三十錢、五十錢、一圓
平町各藥店ニテ特約販賣致します

仙臺高等工業學校長試驗證明
鐵道省
福島縣廳　御指定
[illegible]號
萬[illegible]

夜間診療
胃腸　十二指腸虫病　内科　專門　内科部
梅毒　淋病　婦人病　包莖　肛門病　專門　外科部
平南町　松村病院　電話七〇一

營業種目
内地材
材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部
米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町　新川町
電話三三五番

ステキ〳〵……
蜂印香竄葡萄酒
ヘ・チ・ジ・ル・シ　コ・ー・ザ・ン　ワ・イ・ン
近藤利兵衛商店
5–45

外科、耳鼻咽喉科
内科、泌尿器科
X光線科
外科　赤心堂病院
平町字田町
電話四七五

平町田町
高久病院
電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
内科小兒科、外科花柳病科、耳鼻咽喉科、レントゲン科、
看護婦及び見習募集

政府の提出案
昨夜兩院を通過
直ちに御裁可を仰ぐ

（東京電話九日午前十時着）今次議會に政府の提出した日本銀行特別融通並に損失補償法案及び臺灣に於ける金融機關に對し資金融通に關する法律案モラトリアム後承諾案は昨八日午後十時に及むで貴衆兩院を通過した、內閣は直ちに上奏御裁可の手續を經て官報號外に發表即日手交した

入山の損害は
案外に輕少
最近呪はれ通しの
常磐地方諸炭礦

常磐炭礦界には損害續々として人爲的及び天災的の大椿事が勃發しつゝあるので常磐炭礦界も呪はれたとの聲を聞くに至つた、磐城炭礦に月餘に亘る勞働爭議が起き、それが解決するや殆ど間もなく百三十二名の犧牲者を出だした常磐炭礦界遭難史（レコード）を劃した磐炭町田竪坑々內火災の大慘事が起き、その後入山炭礦に爭議の火の手が揚がり、それと前後して磐崎村湯原三井炭礦にも同樣爭議が起き、三井炭礦が數日で圓滿解決するや爭議は入山炭礦のみとなり、僅に一ケ月近くなるのに未だに解決の曙光を發見し得ない矢先、此ガス爆發事件が勃發したもので矢繼ぎ早に起きる不祥な事件に炭礦經營者及び炭礦勞働者並に炭礦關係者は勿論附近の住民までが何か呪はれてゐるのではあるまいかと案じてゐる程である、而して入山炭礦今次瓦斯爆發の原因については仙臺鑛山監督局の中村技師が出張調査をなしつゝあるが瓦斯が爆發した個所は極めて狹いところなので入坑作業をして居る者も二十名內外であつたため犧牲者も十五名位で濟んだ損害の程度については種々取沙汰されてゐるが瓦斯か發生して爆發してしまへば普通と何の變りもなくなるので坑內火災の如く復舊工事を要する事はなく坑內の損害は極めて僅少である唯強いて損害の程度を測れば會社から遺族に對する扶助料、弔慰料を支給する額と社葬經費、其の他雜費位のもので磐城炭礦町田竪坑の災害に比して遙かに損害の程度が低い寧ろ不幸中の幸ひでもある

遭難者の社葬と
會社當局の弔辭

入山炭礦災害犧牲者十六名の葬儀は別項所報の如く昨八日盛大に執行したが會社當局者の弔辭左の如し

弔辭

本月六日午前十一時、第五坑々內爆災の爲、故渡邊粂吉君外十五名の諸子が遂ひに悼ましくも壯烈なる殉難を餘儀なくさるゝに至りました、我社は常に上下相戒め協力して只管事故の防止に細心の注意と方法とを怠らなかつたのでありますが、神ならぬ身の計り知り得ない災禍は、如何にする術もなく遂ひに諸子の生涯を奪はれました事は哀悼悲痛の極に堪へ得ないのであります、惟ふに諸子は一死を以て職務に殉しましたものでありまして、之れ取りもなほさず軍人の戰死に較ぶべきそは尊も眞に從業員の龜鑑であると推賞して猶ほ餘りあります、さあれ諸子の如き尙ほ春秋に富む有爲の才を中道に失ひ親子骨肉堂に殘つて哀別の淚切なるものあるを思ふとき痛恨胸を貫くものがあります、我社は諸子が生前の功績と其の壯烈なる殉職を顯彰する爲茲に葬場を設け社葬を營むでそして尊靈を慰めんとするものであります、諸子の英靈よ冀くは我社の情を餐け給ひ

昭和二年五月八日

入山採炭株式會社

社長　門野重九郎

弔詞

本月本日茲に葬場を設けて殉難諸君の葬儀を執行致しまするに當り不肖漆野佐市郎從業員を代表して故渡邊粂吉君外十五氏の靈に對し謹んで弔辭を奉ります、不肖身を坑務所長に承けて以來深く人命の尊きを思ひ事業の性質上危險防止の施設に就きましては聊かながら微力を致し常に部下を督勵して施設の全きを期し更に神明に祈つて災禍の絕對になかるべきを期して居りました、然るに何事の呪ひなりしか茲に諸君の壯烈なる遭難を見るに至りました事は一山の主宰者である私として錯愕爲す所を知るに由なく泣て鬼神に訴へるとも更に及ばないの有樣であります去れども徒らに諸子の死を悲しむ事は私の心事ではありません、生前職務に忠實克く社務に貢獻せられました諸君は、今や尊き職に幽明境を異にするとも其の志は永く業務の發展と一山安寧幸福の礎となられました事を堅く信して疑ひません、爾後私は諸君の志を体し悲痛の心に鞭つて社務に精進し飽くまで諸君の犧牲を徒爾ならしめぬ樣努力するの覺悟で御座います諸君尙春秋に富み或は嚴父慈母と別れ又は良妻愛子を殘して果なき永刧の旅に上る其の彼を思ひ之を偲ふとき私は只感極まつて言ふ所を知りません在天の英靈よ幸ひに此の心事を酌み給へ

坑務所長　漆野佐市郎

弔辭

昭和貳年五月六日午前十一時第五坑五電卸に於て發災の報に接するや、予は部員と共に直に救援に赴きしも事甚た突如に出で當時同方面に作業中なりし渡邊粂吉君以下十五氏は災厄を免るゝに遑なく遂ひに職務に殉するに至れり、由來不可抗力の災禍は如何ともすべからず遂に今回の事あり哀悼何んぞ堪えんや、顧るに諸君は常に精勵勤直眞に當山從業員の精華として謳はれ五坑の發展は實に諸君の負ふ所多く今後社業の發展に伴ひ益々其の力に俟つもの多かりしに、今や一朝にして英靈空しく痛恨せざらんとするも得んや、呼、人生朝露の如しと雖も我等炭礦に從事するもの境涯も亦果敢なきにあらずや、然さも凡そ職務に殉ずるは吾人の本分にして又男子の本懷なり人誰か死なざらんや、生を偸ます百年亦一瞬玉碎骨を埋むれば千載の下芳名尙新なり本社は諸氏の殉職を壯なりとし對するに社葬の禮を以て茲に祭壇を設けて英靈を祀る、予は此の盛典に列し生前の友たり部下たりし諸氏に永別を叙せんとして靈前に立ち感慨胸に充て言ふ所を知らず詞を述べて弔辭となす

技術部長　大貫經次

生産の二割が
不良木炭
組合調査嚴重

磐三郡方部に於ける生產木炭の品質が漸次底下しつゝある現狀に鑑みて磐三郡木炭同業組合では[illegible]檢查計劃のもとに嚴重な檢查を勵行してゐる事既報の如くであるが此の檢查の結果磐三郡に於ける生產木炭の約二割五分は不合格品である即ち量目不足其の他の不正品が如何に多いかを露骨に裏書きするもので同業組合當局では

『不合格が二割五分に達したのは生產當業者に取つては氣の毒であるが組合としては止むを得ない事で不正品の中には量目不足殘に正味量を明記してないものさへある當地方木炭界の將來に取つて甚だ寒心に勝へない今後は殊に嚴重な取締を勵行して木炭生產の向上に努め平署とも共力法令に依つてまで嚴重な取締をする答だ』云々と語つてゐた

脫退した坑夫を
組合が袋叩き
血に狂つた坑夫組合を
平署嚴重取調中

入山炭礦の爭議事件は勃發以後一ケ月餘を經過し未だに解決の曙光も見へず日本坑夫組合の主幸する爭議團は日を經るに從つて漸次足竝亂れ加ふるに軍資金の欠乏は量食さへも意の如くならず今や全く無力の狀態に陷り僅に何人かの手に依つて調停されるのを唯一の慰めとし調停者の現れるまで爭議を繼續する事に焦慮してゐるが會社側の態度は依然强硬にして何人の調停も之れを拒絕して飽くまで坑夫組合排擊の擧に出でる方針であるため爭議團は全く手も足も出ず獨得の宣傳に依り辛くも餘命を長らへてゐる狀態である隨つて心ある組合員は此の爭議に依つて殆んど坑夫組合幹部間の無能と敵なき戰に目醒め坑夫組合を脫退する者續出の傾向にあつた折柄今次第五坑內の爆發事件突發するや組合幹部は爭議團員と共に坑口に至り萬歲を三唱し[illegible]嘲もあり遺族は勿論一般憂愁にある慘事の勃發に萬歲を唱へる如きは不謹愼にも非人道的にして天人共に許さない處であるとなし爭議團より脫退するもの增加し來たが

脫体者である第四坑々夫室井太一（三八）が昨八日午後八時頃第四坑長屋附近を通行中突然姿を現した爭議團[illegible]武男、澤田助男外一名は脫退を理由に室井を袋叩きにした事實あり平[illegible]のために逮捕され[illegible]嚴重取調をうけ[illegible]の如く足並千千に亂れてゐる爭議團は全く[illegible]待つのみの狀態に陷つ[illegible]

圍碁試合に
磐炭軍勝つ
平軍惜敗す

磐城炭礦軍と平軍の圍碁試合は既報の如く昨八日午前十時より平町大村屋旅館に於て執行したが觀戰者多數に達し非常な激戰で最後にときまで兩軍の得點同數で磯崎、谷口兩主將の對戰の勝敗の岐るる大事な瀨戸に立つたので觀戰の爲め來平の佐藤庄太郎二段を初め兩軍の戰士はかたつを呑み一石は一石と手に汗を握らしたが谷口氏の健鬪も磐炭主將磯崎氏の爲め僅か一點の差を以て惜敗したが平軍では今秋湯本町に遠征して雪恥する意氣込みである

初夏の空になびく
悲しき香の煙
參列者を泣かした
きのふ入山の社葬

入山第五坑變災事件の犧牲者十六名の社葬は既報の如く八日午後一時より同社礦務所前廣場葬場に於いていと崇嚴裡に擧行された此のの朝來の微溫を含む初夏の綠風は葬場內に飾られた弔旗を靡かし定刻前正午頃から

葬場附近に密集し此の日の悲き葬儀を見んとしてゐる群衆の面は無限の哀愁を漂はし正午を過ぐる廿分弔旗、喪旗花輪に圍まれた渡邊留造の柩に續いて十六[illegible]悲しき行列は蜿蜒社宅の如く[illegible]葬場に繰り込み正面祭壇に鎭られたが橋本林太郎並に妻トク兩名の柩が長女リツを負ふたトクの弟新一（二三）が手に位牌をもたれて葬場に向つた折の如き老も若きも一切に淚を催させ群集の中には聲さへ上げて慟哭する者もあり斯くて定刻導師森文雄師を先頭に僧侶十數名が出仕し吉田委員長の挨拶

僧侶の讀經あり型の如く開野入山社長、漆野礦務所長、大貫採炭部長、馬目自治會長、樫村平署長。高木湯本町長外十數氏弔詞朗讀、喪主漆野佐市郎氏の燒香に次いで此の日の葬儀[illegible]泪新なる各遺族の燒香一般の燒香あつて午後三時閉式したが參列者一萬餘人に及び近來の盛儀であつた

工費約二萬を投じた
井戸澤橋開通式
村の芝居も出來て
郡南方部民雀躍

本郡南田人村方面富源の門戶である田人村鮫川に架設しある井戸澤橋は洪水每に流失し其の都度地方民の不利不便尠なからぬ爲め縣議古川傳一氏等が奔走の結果

縣費支辨工事として工費一萬五千五百圓を投じ架設工事中の處、竣工したので昨八日盛大な開通式を擧行した、式は午前十時橋の中央に設けられた祭壇に下山田縣社々司の大祓に始まり小宅田人村長先導となり吉例により同村綠川敬三郎（八四）同敬一郎（五二）同保雄（三二）三夫婦及び荷路夫村綠川駒次（七八）同繁藏（五二）同繁治（三七）の三夫婦が紋服の渡橋式あり次に橋畔の式場に於て小宅田人組合村長の式辭、井村助役の

工事報告 縣議古川傳一、鈴木平土木監督所長、山田安島村長、田人村議代表、澤田庫之助氏外數名の祝辭ありて同橋梁請負人川部村中山吉五助氏に金貳百圓と共に表彰狀を綠川敬次郎、綠川繁藏氏に各記念品を贈呈して盛會裡閉會し同地逸見萬吉氏宅で祝賀の

盛宴を張り植田藝妓酒間を幹旋し午後三時散會したが新築の逸見氏宅に於て一同紀念撮影をなし同村青年が餘興の歌舞妓芝居等もあつたが重なる來賓は、安島山田村長、古川縣議、田崎植田物產專務、村松磐東副支配人等である因に同橋梁の請負人川部村中山吉之助氏は金成植電社長等の信任を受け植電發電所工事、三澤隧道工事等幾多の大工事を完成した人で當年卅六才前途を囑目されてゐる

徵兵忌避の
丁治收監
氏名を詐稱し

大野村大字八莖字片倉五居住坑夫自稱小室定治事本名曾澤丁治（二一）は本年徵兵適令に相當するので寄留地役場からも本籍地役場からも何等の通知がないので過般大野村役場を經て本籍地役場に照會した處同人が自稱する小室定治は旣に徵兵檢査を終つてゐた事判明したので驚いた丁治は昨八日石城郡役所に出頭前記の旨申出たのが徵兵忌避の目的から氏名を詐稱してゐた事判明平刑務所に收容された

坑夫續々入坑
けさの一番方から
今明日中に復舊する
坑夫會社に好意

入山炭礦今次の災害は社會一般から非常の同情を寄せられてゐるが犧牲者に對しては本紙既報の如く規定の三倍に相當する扶助料を給與したる外社葬その他に至るまで會社當局の態度は飽くまで誠意の限りを盡した爲め一般從業員等は會社に好意を寄せ災害直後の今九日朝一番方の入坑百四十四人、第四坑六十七人あり然かも坑夫組合側は凡ゆる宣傳を試み入坑を阻止してゐるに抱らず漸次入坑者增加し今明日中には舊に復すべきものと見られてゐるが會社では今九日午前十時より湯本町溫泉神社社司佐波古直元氏によつて修祓の式を執行し、從業員等は安心して入坑する事が出來る事となつた

千葉氏出席
東北辯護士大會に

東北辯護士大會は七日午後二時から青森縣弘前市偕行社に於いて開催されたが當日出席辯護士六拾五人で本縣よりは山川定範、湊芳藏北川次男、阿部四氏と共に平町からは千葉辯護士列席したが千葉氏は大會終了の直後入山炭礦の變災を聞き昨八日夜八時着て歸平した

陪審法講演

平町役場主催の陪審法講演會は明十日午後六時から平劇場で開催されるが當日は大審院部長磯谷幸次郎、司法省書記官古田正武、辯護士星與一の三氏が講演する筈である

紅燈街

植田花柳界では春の家の半玉まり子が名前も其のまゝ昇格して一本のた披露目とあり同勢五人暖かい春の賑かさ小圓、染丸、まり子、照千、た輕、いづれも丸く丸くと名前を見立てなすつた、兎角世の中はまん丸くすべてを納めるのが藝妓の務めであるの筆法から女將の氣轉である、次に新油家では金太郎を筆頭に〆太郎、鈴太郎、新太郎と太郎づくめオイ馬鹿にするナイの傳法肌大學な國學を誇る議會ですら柔道何段の背負投た、ヒヂ鐵砲胴切ぐらいはイザとなれば朝飯前の凄うでぞろいである

登錄商標

釀造元

福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番 釀造工場二七番）
振替東京一九七五五番

東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五七二二番
振替東京六八三二二番

三百年の古い歷史と
他の模擬の出來ない
獨特の芳香と色澤を有つ

ヒゲタ醬油

釀造元　銚子醬油株式會社
平町田町
特約店　廣瀨支店
電話五四番

入院隨意（自炊の便あり）
外科專門
平南町
上田外科醫院
電話一二九

金牌一等賞受領（數回）
磐城國平町
草野染工場
電話三四八番

謹告

當坑々務所第五坑內變災遭難死者社葬ノ際ハ御多用中御會葬ヲ忝フシ難有奉深謝候混雜中尊名伺ヒ洩モ可有之候ニ付乍略儀紙上ヲ以テ不取敢御禮申上候

昭和二年五月八日
入山採炭株式會社
湯本坑務所